

「教員養成教育の評価等に関する調査研究」フォーラム

「教員養成教育の『質保証』システムを考える」



東京学芸大学では、教員養成教育の質的水準の向上のため、教員の実践的指導力を養成するカリキュラムやそのための組織運営体制などの評価のありようについて、平成 22 年度から平成 25 年度までの 4 年間のプロジェクトを立ち上げ、「教員養成教育の評価等に関する調査研究」を推進してきた。

その中間報告を兼ね 3 月 25 日に学術総合センターでフォーラム「教員養成教育の『質保証』システムを考える」を開催し、学内外から合わせて 115 名が参加した。

第一部では村松学長の挨拶に続き、田中副学長によるプロジェクトの概要説明及び東京学芸大学佐藤千津准教授による中間報告のほか、文部科学省新田正樹教員免許企画室長による基調講演「教員養成教育の『質保証』と課程認定」が行われた。

また第二部では、東京学芸大学岩田康之准教授がコーディネータとなり、新田正樹教員免許企画室長のほか、名城大学池田輝政教授、和歌山県教育庁岸田正幸学校教育局長、日本女子体育大学田子健教授をパネリストとして「教員養成機関の在り方を探る」というテーマで、パネルディスカッションが行われ、教員養成教育の現場での課題から大学と教育委員会との連携、課程認定との関係等活発な議論が交わされた。

多くの国公立大学関係の参加者からは、本調査研究に関して今後も期待する声が多数寄せられた。